

河川基金助成事業

馬入水辺の楽校及び地域の自然環境の保全と 環境教育の推進

助成番号：2018-6111-013

NPO 法人 暮らし・つながる森里川海

理事長 白井勝之

平成 30 年度

2018 年度成果報告

■ 多様な活動が展開できました。

今年度は「人と生き物が共存したまちづくり運動の展開」と「環境教育活動の拡充強化」を二本柱に、地域のネットワークの形成及び運営体制の強化に取り組みました。

□平塚市□生物多様性アクションプラン策定スタート

トンボの棲むまちづくり運動の成果を基に、平塚市に対し生物多様性地域戦略策定の要請活動を続けてきましたが、「生物多様性アクションプランづくり」（2019 年度開始）として具現化しました。市民や NPO が集まった推進委員会により、3 年間の生物調査を実施し、自然環境評価書を策定する中、具体的な保全戦略を練っていきます。

□成果有り、ウナギの棲む川づくり運動

石倉カゴと間伐材漁礁を設置し、調査を 2 回実施しました。ウナギやカワアナゴなど、多数の生き物が捕獲され、その有効性が確認されました。

9 月 24 日に開催したシンポジウム「ウナギが棲める川づくりを目指して」には、100 人を超える参加者が集まりました。ウナギの生息状況や保護の必要性、石倉カゴの有効性を PRすると共に、国土交通省京浜河川事務所にも参加していただき、いい川づくりについて意見交換しました。石倉カゴについては、今後、多自然川づくりの手法として、関係機関に設置促進を働きかけていきます。

□多様な環境教育活動を展開

環境教育活動については、51 回の催しを開催することができました。運動の輪を広げるため、公募の取り組みを大幅に増やしました。

□森と海はつながる。初の皮むき間伐体験

山梨県で開催した相模川上下交流会では、皮むき間伐体験を実施しました。子どもたちや女性でも森林保全に力を発揮できることがわかりました。

□五感を育む木育活動：「ひらつかおもちゃ広場」を開催

新たな活動として、木のおもちゃと触れ合う「ひらつかおもちゃ広場」を 3 回開催しました。子どもたちの五感を育む取り組みであり、森林保全にもつながることから、今後も力を入れていきます。

取り組みの中で、地元幼稚園やおもちゃインストラクターなど、新たな人的結びつきが図れました。おもちゃインストラクター 4 名を養成することができたのも大きな成果でした。

□農業振興による里山環境の保全

（消費者参加型農業・野菜販売による NPO の財務体質強化）

消費者参加型農業を推進しています。湘南生活クラブ生協との提携により、11 月よ

り、週に1回、農園の野菜の店舗販売が始まりました。

□里山環境の保全

里山をよみがえらせる会との連携により、そばや小麦、稲作栽培に取り組んだ他、トコロジスト養成講座やトンボと遊ぼう平塚などを開催しました。

□一歩前進！ネットワークの形成

「東海大学健康学部」の体験研修の受け入れや「湘南生活クラブ生協」との連携が特記されます。桂川・相模川流域協議会や日本野鳥の会神奈川支部との連携も深まっており、いい川づくりやウナギの棲む川づくり運動、マイクロプラスチック削減運動、海岸域の環境保全活動などが進められています。

馬入水辺の楽校は東京環境工科専門学校の実習地になっており、年に3～4回、30名余の生徒が来校されます。連携を深めようと、学生や卒業生に対し、情報を提供していくことになりました。協働の催し開催も検討していくことになりました。

□運営体制の強化を目指す。ワークショップ開催決定（2019年度より）

運営体制の強化については、若き人材の育成が焦眉の課題です。

協議を重ねた結果、2019年度より、ワークショップ「夢の楽校づくり」を開催することになりました。

若き人に集まっていただくためには、若き人が発信人になることが必要と考え、八王子市の長池公園で指定管理業務を請け負っているNPO法人フュージョン長池の若きリーダーたちにコーディネイトをお願いしました。

将来的な馬入水辺の楽校の野外博物館化（公的施設化）を視野に入れ、国土交通省の進める水辺リング等、経済的側面を取り入れた新たな運営方法を模索していきます。後継者の育成も大きな狙いの一つです。

■ 受賞を糧に、さらなる前進を目指します

こうした取り組みが認められ、第12回トム・ソーヤースクール企画コンテストで努力賞をいただいた他、第12回かながわ子ども子育て支援大賞、個人・団体部門で奨励賞を受賞しました。公益財団法人河川財団より、平成29年度優秀成果賞をいただきました。

これも会員を始めとする皆様のご支援の賜物と深く感謝いたします。

2019年4月1日

NPO法人 暮らし・つながる森里川海
理事長 臼井 勝之



事業別活動報告

● 生物多様性保全活動

川の自然と触れ合える場づくりを目指して、「生き物の王国づくり」を進め、エコスタックづくりや原っぱの保全活動などに取り組みました。ウナギの棲む川づくり運動では石倉カゴと間伐材漁礁を設置しました。ウナギなど多くの水生生物の生息が確認されました。トンボの棲むまちづくり運動の成果が実り、2019年度より、平塚市の「平塚市生物多様性アクションプランづくり」が開始されます。

* 馬入水辺の楽校生き物の王国づくり

- ・ トンボ池、カエル池のエコアップ（5月20日：参加者16人）写真左
- ・ カエル池のかい堀り：外来種の駆除（9月8日：参加者52人）写真右



* プロジェクト トンボの棲む街づくり運動 7月8日 参加者：62人

「フォーラムトンボの棲むまちづくり」を組織し、トンボ調査を実施しています。トンボ捕りを楽しむ「トンボと遊ぼう平塚」を土屋の里山で開催しました。



*** プロジェクト ウナギの棲む川づくり運動**

お魚調べ：5月27日（写真左）、3月23日（写真右） 参加者66人

絶滅危惧種ウナギの生息環境を保全しよう「石倉カゴ」と「間伐材漁礁」を各一基、設置しました。北里大学や神奈川県水産技術センター内水面試験場、桂川・相模川流域協議会と協働で、ウナギや水生生物の調査を実施し、多様な生き物が棲める川づくりに取り組んでいます。9月24日にはシンポジウム「ウナギが棲める川づくりを目指して」を開催し、ウナギの保護を訴えました。尚、石倉カゴ・間伐材漁礁の調査では、ウナギやカワアナゴ、モクズガニなど、多数の水生生物が住み着いていることがわか、その有効性が確認されました



*** プロジェクト 素敵な原っぱづくり 参加合計29人**

絶滅が懸念されているカヤネズミの生息地を守るため、クズや外来種セイタカアワダチソウやシナダレスズメガヤの除草に取り組んでいます。

・4月7日、5月5日、7月7日、8月4日、9月1日、10月6日、1月5日、



写真：難敵セイタカアワダチソウの引っこ抜き。大学生の力を借りました。

● 環境教育活動

子ども達や都市住民の自然離れが進んでいます。自然との触れ合いを十分しないままに、大人になってしまう子供達が大半を占めてしまうのではと危惧しています。こうしたことから、「子どもの時は子どもする」を合言葉に、多様な環境学習活動を展開しました。

・ やぎ島探検ツアー：6月16日 参加者68人

やぎ島は馬入川にある島状の中州です。以前、やぎが放たれていたことから、そう呼んでいます。大潮の干潮時、歩いて渡れる冒険の島です。ライフジャケットを使った川遊びや魚採りなどを楽しみました。今年は東海大学健康学部とのコラボで開催しました。



大学生も参加



モクズガニをゲット



子どもたちの歓声がこだましました。

・大バッタ飛ばし大会：10月7日 参加者33人

バッタを捕まえ、種類を調べて、飛ばす。いろんな要素が組み合わせられていて、みんな夢中になります。地域の中で、原っぱが広がり、バッタがたくさんいる環境は水辺の楽校だけです。



バッタを捕まえ、手のひらから飛ばす

・森と海はつながる「相模川上下流交流会」：7月21日（土）参加者51人

5年目になる山梨の子どもたちとの上下交流会。今年のカ開催地は山梨県。清流と遊び、皮むき間伐を体験しました。杉やヒノキの表皮を剥ぐと、1年後に枯れます。重量が減り、搬出しやすくなります。注目すべきは、子どもたちでも間伐に力を貸せること。森の中の作業は楽しく、大好評でした。2019年度も継続実施することになりました。

・トコロジスト養成講座 6月9日、7月14日、8月25日 参加者合計：70人



より良い街づくりには、歴史や文化、環境など、そ

の場所のことならなんでも知っている専門家の育成が必要です。僕らの先輩、浜口先生がトコロジストと名付けました。自然観察の楽しさを体験してもらおうと、センサーカメラを使った哺乳類の観察やモグラのトンネルの型取り（写真）など、新たな自然観察の手法を学びました。



・お散歩バーディング：5月3日、12月9日、12月22日、3月10日

参加合計35人

市民参加による探鳥会を4回開催しました。

子どもたちを魅きつけるバードウォッチングをテーマに身近にいる野鳥をじっくり観察しています。

・カヌー&ガサガサ魚捕り：8月5日 参加86人

上下流交流活動の一環として、神川橋の下流でカヌー体験と魚捕りを楽しみました。子供達の「楽しい」「気持ちいい」の声が溢れました。



・相模湾ネイチャーウォッチングクルーズ：3月9日 参加38人

森と海はつながる。海の自然と触れ合おうと、日本野鳥の会神奈川支部と協働しました。オオミズナギドリの群飛に期待しましたが、出会えませんでした。でも、北の海にいるウトウが2羽見られるなど、収穫は大。相模湾の自然を満喫しました。海から見る我が故郷は新鮮、どこか違う場所のように思われました。砂丘やクロマツ林がかるうじて残っている感じで、保全しなければと思いました。



・カエル池かい掘り：9月8日 参加52人

カエル池のアメリカザリガニやウシガエルを駆除しようと、みんなで力を合わせました。泥だらけになりましたが、みんなもう夢中！いろんなことが学び、体験できた1日となりました。



・定置網水揚げ見学とお魚調理体験：8月18日 参加25人

海の自然と触れ合おうと、平塚市漁業協同組合の協力で定置網の水揚げを見学しました。朝3時に漁港に行くと、多勢の方が働いていました。サメやエイなど普段見たことのない魚もたくさん獲れていて、ちびっ子たちの目を魅きつけました。見学した後、アジやサバを包丁で開き、みんなで食べました。はじめはコワゴワの包丁さばきでしたが、すぐに慣れ、うまく捌けるようになりました。何事も経験です。



・お月見と鳴く虫コンサート：9月22日 参加12人

月見団子を作って、名月を愛でながら、鳴く虫を観察しました。

お団子づくりは大好評でした。お月様に奉納した後、美味しく食べました。



・古民家まつり（馬入水辺の楽校自然展・平塚おもちゃ広場）

11月17日～18日 参加者101人

活動拠点、古民家「暮らしの家おきなや」で古民家まつりを開催しました。

パネル展示、ミニミニ水族館、ストーリーペインティングを実施。オカリナコンサートや沖縄舞踊、綿あめ、ひらつかおもちゃ広場も楽しみました。



・オギの秘密基地づくりと原っぱ遊び : 11月24日 参加者23人

オギのテントづくりは、刈って、束ねて、立てるだけの単純な遊びですが、色々な要素が組み込まれた優れた環境学習活動です。中でお弁当を食べるお弁当が格別に美味しいのであります。



クズのつるで縄跳び



ご機嫌！オギのテント



オギのテント村、中で食べるご飯が格別！

・冬のナイトウォーク 津久井湖城山公園ムササビ観察会 2月3日 参加者15人

冬の森で自然観察を楽しもうと、上流部の城山公園でムササビ観察などを楽しみました。空を見上げるとスバルが輝いていました。夜の森は非日常体験の連続、子どもたちのドキドキがこちらに伝わってきました。



まずはムササビ観察のお勉強



ムササビの食べた葉っぱで遊ぶ

・地べた探検 1月12日 参加者23人

自然観察は、目先を変えると見えないものが見えて来ます。地面にいる小さな生き物を探そうと、地べた探検を楽しみました。朽木の下を探すとカブトムシの幼虫やコガタスズメバチの越冬個体などが出てきました。生き物の住処をつくろうとワラジボードも設置しました。

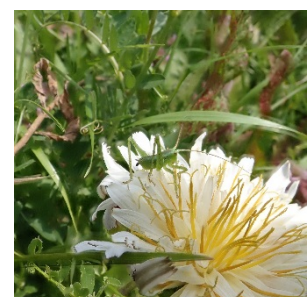


・農業体験：6月3日、9月29日、10月13日、11月3日 参加者32人

農業振興による里山環境の保全に取り組んでいます。一環として農業体験に力を入れています。里山をよみがえらせる会の協力を得て、米作りや麦やそばづくりを楽しみました。

・自然観察ガイダンス：3月31日 参加者13人

多くの市民に参加してもらおうと、毎年3月に開催しています。校内をぐるっと一巡し、水辺の楽校の魅力を紹介します。春の息吹がそこここに。



● 協働活動

他団体との連携による環境視点の街づくりに取り組んでいます。

・ 桂川・相模川流域協議会（いい川づくり）

相模川上下交流会、カワラノギク復活プロジェクト
相模川クリーンキャンペーン、寒川の河原で遊ぶ、
桂川・相模川流域協議シンポジウム
プラごみ削減運動
ウナギの棲む川づくり、相模川いい川づくり

・ 団体との連携

ひらつか環境ファンクラブ、里山をよみがえらせる会、地球っ子広場
金目川水系流域ネットワーク、神奈川ウオーターネットワーク
湘南 NPO サポートセンター、横浜日本野鳥の会神奈川支部
湘南生活クラブ生協
(株) ビオトープギルド

・ 学校や行政等との連携

- * 国土交通省京浜河川事務所
相模川ふれあい懇談会（世話役） 相模川・小出川水面等利用者協議会（委員）
河川協力団体に指定
- * 神奈川県水産技術センター内水面試験場
- * 平塚市
みどり公園水辺課、環境政策課、環境保全課、ひらつか市民活動センター、公民館
松原地区自治会
- * 東海大学藤吉研究室・健康学部、東邦大学
東京環境工科専門学校
- * 神明中学校
- * 平塚市松風幼稚園（木育活動）

● 広報活動

運動の輪を広げるべく、広報活動を積極的に実施しました。

- ・ 馬入水辺の楽校ミニミニ自然展（於：平塚市緑化祭り、暮らしの家おきなや）
- ・ 平塚市環境展、ひらつか環境ファンクラブパネル展
- ・ 会報（年3回）通信（年2回）
- ・ 河川財団のHPに活動報告を積極的に実施しました。
- ・ タウン誌、平塚市広報等への情報提供。

● 褒賞

- ・ 第12回トム・ソーヤースクール企画コンテスト：努力賞
- ・ 第12回かながわ子ども子育て支援大賞、個人・団体部門：奨励賞
公益財団法人河川財団より、平成29年度優秀成果賞受賞

3. 川づくり団体部門 [実施箇所位置図]

助成番号	助成事業名		所属・助成事業者氏名	
2018-6111-013	馬入水辺の楽校及び地域の自然環境の保全と環境教育の推進		NPO 法人暮らし・つながる 森里川海 理事長 臼井 勝之	
助成事業の主な実施箇所	主な実施箇所 馬入水辺の楽校			
河川基金ロゴ等表示状況写真	遠景		近景	
延べ参加人数	一般	1,184名	スタッフ・事務局	284名
マスコミ等の反響	平塚市広報、タウン誌で紹介されました。			